

令和5年10月5日

令和5年度地方教育行政功労者表彰について

文部科学省では、毎年度、地方教育行政においてその功労が特に顕著な教育委員会の委員、教育長について、その功に報いるとともに地方教育行政の発展に資するため、文部科学大臣表彰を行っています。このたび、下記のとおり令和5年度の本県の被表彰者が決定しましたのでお知らせします。

記

1 対象

都道府県・指定都市教育委員会の教育長及び委員、市町村教育委員会の教育長及び委員として、地方教育行政において特に顕著な功績のあった者に対して行う。

2 被表彰者

令和5年度 福島県関係者 5名

【市町村教育委員会関係】

郡山市教育委員会委員	あべ こうぞう 阿部 晃造	現職
元小野町教育委員会委員	おおちり よしいち 大千里 義市	令和4年9月30日退任
磐梯町教育委員会委員	みやもり ゆうじ 宮森 優治	現職
元南会津町教育委員会委員	わたなべ けんいち 渡部 謙一	令和4年6月27日退任
元川内村教育委員会教育長	あきもと まさし 秋元 正	令和5年3月31日退任

(注) 記載内容は、令和5年8月1日現在

3 表彰式

日時：令和5年10月12日（木）12：20～14：20

会場：文部科学省講堂

4 主な功績

別紙のとおり

(別紙)

令和5年度地方教育行政功労者主な功績一覧

番	氏名	主な功績
1	阿部 晃造	<p>○平成23年9月28日に郡山市教育委員会委員に就任（令和5年9月27日退任）、平成25年7月21日から平成28年9月27日まで委員長を務めた。</p> <p>○東日本大震災以降の児童生徒の体力維持のために閉校後の体育施設の開放や、屋外プールでの水泳授業の代替措置として、市有施設や民間の屋内プールを活用した水泳授業の実施に貢献するとともに、平成30年度に福島県内初の義務教育学校として開校した西田学園設立のための調査研究等にも積極的に関わった。</p> <p>○少子高齢化による人口構造の変化や、ICTの浸透によるデジタル・トランスフォーメーションが進展する中、学校教育分野においては、新しい時代に活躍できる人材を育成するため、一人一台のタブレット端末環境を生かし、充実したクラウド型デジタル教材を使用した授業の推進など、郡山の特色を生かした、新しい教育の推進に尽くしている。</p>
2	大千里義市	<p>○平成20年3月19日に小野町教育委員会委員に就任、平成23年10月1日から平成30年4月1日まで委員長を務めた。</p> <p>○東日本大震災により被災した学校施設や社会教育施設の本格的な復旧において、教育委員長として予算確保を行った。</p> <p>○「小野町教育環境整備の基本方針」の改定に際して、他の教育委員と協力しながら、教育委員会定例会や臨時会時において、スクールバスの町内全域運行や、今後の児童数の推移を見極め、早急に統合すべく、旧小野新町小学校を仮庁舎として、統合する提案をした。住民説明会を昼夜問わず行うことで町民の同意を得て、令和2年4月1日に新設の「小野小学校」を開校させた。</p> <p>また、小野小学校の開校にあたり、校名の決定、校歌の作成等に積極的に関わった。</p>
3	宮森 優治	<p>○平成22年10月1日に磐梯町教育委員会委員に就任した。</p> <p>○磐梯町独自の「幼小中一貫教育」の更なる充実のため平成24年度からの「磐梯の教育Ⅲ」の策定にあたっては、これまで重点的に実践していた英語教育に加え、民間企業の感覚をもって「IT教育」の推進を提言し、情報手段を適切に活用する能力を育むためITを活用した教育環境の整備の礎を築いた。</p> <p>○町全体で子育て支援を行うため「幼小中一貫教育」に子育て支援を加えた妊産婦から中学校卒業までの切れ目のない支援を実施する「磐梯版ネウボラ」構想の実現に尽力した。</p> <p>平成31年から保育所、児童館、こども館も所管となったことから、「磐梯版ネウボラ」構想を核とした支援計画の有効な活用や情報の一元化、共有化など、子育て世帯の要望を踏まえた教育環境の整備に尽力した。</p>
4	渡部 謙一	<p>○平成22年6月28日に南会津町教育委員会委員に就任し、同時に教育委員長を4年9か月、教育長職務代理者を7年3か月務めた。</p> <p>○近隣町村で最も早く町雇用の「スクールソーシャルワーカー」や「特</p>

		<p>別支援教育支援員」を配置するなど、特別に支援が必要な児童生徒への対応を含め、地域の多様化する教育的ニーズに応じた支援体制の整備・充実に力を注いだ。</p> <p>○国指定天然記念物「駒止湿原」の保存や国選定重要伝統的建造物群保存地区「前沢曲家集落」の保存対策事業などを積極的に後押しするとともに、東京オリンピック・パラリンピックにおけるアルメニア共和国とのホストタウン交流事業に精力的に取り組むことによって、住民が国際理解を深める機会を創出した。</p>
5	秋元 正	<p>○平成25年4月1日から令和5年3月31日までの永きにわたり、川内村教育委員会教育長として教育行政の発展に尽力し、卓越した見識と確固たる教育理念を持って、学校教育・社会教育の振興、地域文化の向上に多大な貢献をされた。学校と地域が双方向に連携する教育活動を推進し、地域の声と学校の願いを教育行政の柱に据え、教室ではできない学びを、地域全体で支える環境づくりに功績を残した。9年間の連続した学びを実現する義務教育学校の開校など、潮流を捉えた教育環境の整備に尽力した。</p> <p>○双葉地区教育長会長として、「双葉郡教育復興ビジョン推進計画（第Ⅲ期）」の策定に尽力した。双葉郡ならではの魅力的な教育の推進による人材育成、教育を中心とした双葉郡の絆づくり、多様な主体との連携による教育と地域復興の相乗効果の創出のため、教育が果たす役割を位置づけた「双葉郡教育復興ビジョン推進計画」の改訂に多大な貢献を果たした。</p>